

■おけい(伊藤けい)

いとうけい

万次郎帰国・1852＝

ペリー来航・1853＝1歳：

戊辰戦争で会津藩が敗れ、日本初の女性移民になったが、現地で早世、後に知られた。

松平容保が9代藩主になった年の会津の材木町で、樽造り職人伊藤文吉の長女に生まれる。

兄二人、弟妹一人ずつの五人兄弟であったが、父は町人として他国に潜入し情勢を探るのが本職だったらしく、家を留守にすることが多く、母のお菊は御屋敷に奉公し、奥方が死んで遺された一人娘お葉の乳母となっていて、おけいは母に連れられ、お葉と仲良く育ったという。

五ヶ国条約・1858＝6歳：日本列島にコレラが流行、隣の二本松まで広がり、里帰りしていた母と妹が罹病して死去。

安政の大獄・1859＝7歳：庄内藩の医師静山の養女だったお葉に、小間使いとして従う。

桜田門外変・1860＝8歳：

遣欧使節・1861＝9歳：お葉が縁談で、宣教師で医者へのボンに学ぼうと静山とともに上府、一旦会津に戻るが、

生麦事件・1862＝10歳：診療の手が足りないとお葉から呼ばれ、憧れの江戸に上る。

8月18日政変 1863＝11歳：この年、長州戦争に出兵したお葉の夫が死去。この年、オランダ人ながらプロシア書記官のヘンリー・シュネルが弟と来日し、横浜にシュネル商会を開く。

禁門の変・1864＝12歳：ヘボンのところに来たシュネルと出会い、その騎士道精神に感心。

大政奉還・1867＝15歳：この年、シュネルは長岡藩家老河井継之助と出会い、敬服するとともに、新潟開港が必要と実現させる。お葉が、シュネルに求婚されて再婚。シュネル兄弟が暴漢に襲われるも事なきを得、シュネルは会津藩の屋敷に出入りするようになり、子供も生まれ、おけいは子守りとなる。

明治維新・1868＝16歳：*戊辰戦争が起こるや、藩はシュネルを軍事顧問に招聘、シュネルはプロシア書記官の退任して、会津に武器を供給すること決意。その船とともに、シュネル一家と会津に戻る。藩主から屋敷を賜り、奥州列藩同盟のために活動することになったシュネルは、藩主の命で、日本名の“平松武兵衛”を名乗る。前線で指揮をしていた父が最期を遂げ、白虎隊も全滅して、兄弟全てを失う。籠城軍のなかで、医師松本良順を支えて、負傷者や病人を救済するうち、ついに鶴ヶ城陥落。未来が真っ暗になるなか、

戊辰戦争終・1869＝17歳：*シュネルが、容保に、ゴールドラッシュに沸く米国カリフォルニアで未来を開拓することを提案。江戸にいた時、シュネルの家で出会い、戊辰戦争後はその手先で活動するうち逮捕されていた藩士桜井松之助が逃げ帰ったきたのに出くわすと、彼とともに開拓団に加わり、アメリカ移民の日本女性第1号になる。横浜港を極秘裏に脱出、米国船“チャイナ号”でサンフランシスコに到着。現地紙{DAILY ALTA CALIFORNIA}に記事が掲載された。農地を買い取り、若松領本拠となることを願い“WAKAMATSU SILK & TEA FARM COLONY(若松コロニー)”と名付けるが、茶も桑も育たず、シュネルは、資金調達に日本に向かったまま連絡がとれなくなり、旧会津藩士の人たちも次々出て行く。桜井松之助と二人だけ残ってシュネルを待つうち、資金が枯渇、

初の日刊新聞1870＝18歳：*“若松コロニー”は、ピーア・キャンプに購入されてしまい、キャンプ家のメイドに引き取られ、松之助は農場の作男頭になる。キャンプ家では家族同様に可愛がられ、未来が開けるかに見えたが、

廃藩置県・1871＝19歳：*インフルエンザ罹り、回復するも、高熱に冒され、チフスと診断され、隔離されたまま、没した。夢を描いた入植地“若松コロニー”の見える丘に、桜井松之助が葬ったという。10数年後、松之助など移民の生き残りの人たちが墓碑を建て、松之助も日本に戻ることなく、現地で67歳の生涯を終えている。のちに日本人記者が墓を発見、日系新聞の記事にしたところ、大きな反響が湧き上がり、世間の知るところとなった。シュネルは日本に戻ったところを、新政府に逮捕され、闇に葬られたという。